

分担研究報告書

日中活動・街の環境と行動障害のガイドライン策定

研究分担者 田中 義之 東京大学大学院工学系研究科附属
キャンパス・マネジメント研究センター 特任講師

研究要旨

本研究では、障害当事者が落ち着いて生活し、地域での豊かな暮らしを実現するため、日中活動の場や街の環境と行動障害との関連を調査し、家族や支援者、地域住民とともに街や建築の環境を整えるうえで有効な手法を体系化することを目指す。

本年度は、強度行動障害のある人を支援している社会福祉法人のうち先進的な取り組みを行っている事業所の日中活動の場を中心に調査し、地域との関係や建築に関する構造化をもとにした工夫と運用のなかで生まれた工夫に分類して環境整備の手法を整理した。

A. 研究目的

日中活動の場や街の環境と行動障害の関連を明らかにすることで、障害当事者の活動を街へと広げ、生活の質を高めることを目指している。さらに、強度行動障害があっても地域社会への参加を促すことは、支援者や地域住民の価値観の転換につながり、障害者支援の人材確保に寄与する可能性がある。

本研究では、日中活動の場での構造化や建物の工夫、街との関わり等について実践例を集めて分析し、計画段階・運用段階における工夫を手法として体系化した基礎的資料を作成することを目的とする。また、人・物・環境のネットワークという視点から研究成果をガイドラインにまとめることを目指す。

B. 研究方法

R5年度は、11月から3月にかけて、強度行動障害のある人を支援している、先進的な取り組みを行っている社会福祉法人8法人、39施設の見学及びインタビューと補足アンケートの調査を実施した。また、平面図から建築的な工夫について分析を行った。調査概要を表1に示す。

調査対象	強度行動障害のある人を支援している社会福祉法人8法人の39施設
調査方法	・施設訪問して見学とインタビューを実施 ・メールにて補足アンケートを実施
調査日程	2023年11月～2024年3月
調査項目	・強度行動障害のある人に配慮した日中活動の場の建築的な工夫 ・改修や設備設置に際してかかった費用 ・建築的な工夫による支援職員・利用者に対する効果 等

表1

（倫理面への配慮）

依頼の際に研究背景、目的を明示し、マニュアルに沿った情報を提供した上で、自由意志による参加を依頼した。一旦参加しても、随時中止、撤回することが可能、またその場合も何ら不利益を被ることがない旨、明確に伝えた。

個人情報については、施設見学を行った法人名・施設名、インタビューを行った担当の支援職員の個人情報（支援職員名）を取り扱うことになるが、調査で得た情報は研究以外の目的には使用せず、厳重に管理し、一切外部に流出させていない。また、施設内の写真撮影の際は、利用者・支援職員等の個人を特定し得る情報が写らないように配慮した。

C. 研究結果

施設見学を行ったうえで、インタビューや補足アンケートの回答に基づき、1. 地域や外部での活動、2. 建築のハード面での工夫、3. 建物のインテリア面での工夫の3つに分類して、特徴的な活動や配慮を挙げて整理する。

C-1. 地域や外部での活動

LaLa-chocolat (就労継続支援B型事業所)

運営法人：社会福祉法人 北摂杉の子会

阪急京都高槻市駅から徒歩1分という立地で、著名なパティシエと協働することでチョコレート専門店として質の高い商品を提供している(図1、写真1)。「障害者支援を前面に出し付加価値とするのではなく、商品の質を高めることが重要」(インタビュー)。



図1 案内図



写真1 事業所外観

若杉 (生活介護事業所) あん'ず若杉 (共同生活援助事業所)

運営法人：社会福祉法人 京都ライフサポート協会

建物は前面道路からセットバックして配置して道路沿いを植栽空間にすることで、利用者だけでなく地域住民にとっても心地よい環境をつくっている。また、十分に広いスペースを確保した駐車場は

送迎の際に前面道路に車を停める必要がなく、敷地内に限らない周辺地域への配慮が見られる(図2、写真2)。



図2 配置図



写真2 事業所外観

ライフサポートはる (生活介護事業所)

運営法人：社会福祉法人 はる

衣料品店として使われていた建物を改修した生活介護事業所。前面道路の歩道に面した大きな開口部をそのまま残して開放的な事業所としている。地

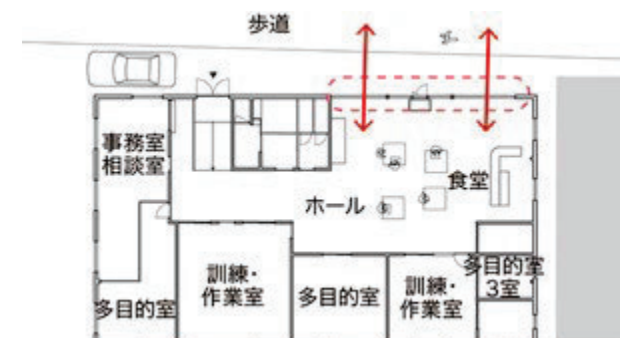


図3 1階平面図

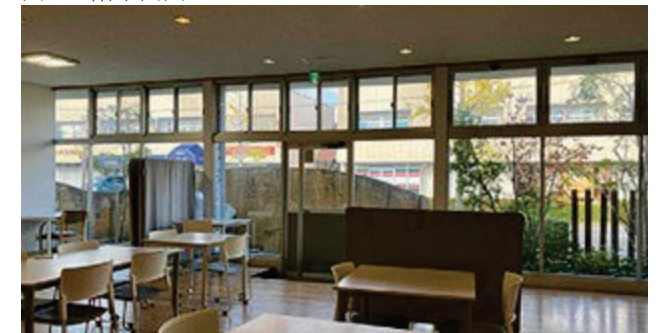


写真3 事業所内観

域住民と直接の関わりがなくても、道を歩く人に知ってもらえることができる(図3、写真3)。

苫小牧市東開文化交流サロン(共生型地域福祉拠点)

運営法人：Social Library Platform(構成団体：社会福祉法人ゆうゆう・株式会社図書館流通センター)

社会福祉法人が図書館運営の専門企業と共同企業体をつくり、図書館、ギャラリー、カフェや多目的ホールなど、多世代の多様な方が利用できる場、活躍できる場を創り出している。カフェは就労継続支援A型事業所になっている(図4、写真4、5)。

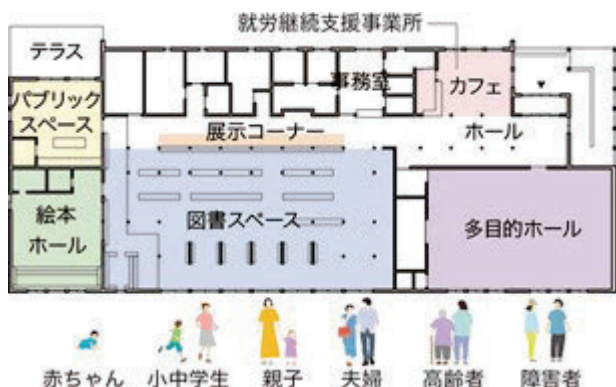


図4 1階平面図



写真4 カフェ内観 写真5 図書スペース内観

ETONE(アートブランド)

運営法人：社会福祉法人 北摂杉の子会

利用者の作品をTシャツや絵葉書、封筒などに商品化して、インスタグラムやインターネット販売の



(図5 ※出典：社会福祉法人 北摂杉の子会 ジョブサイトひむろ広報誌「HIMUROLIFE」No.21、23)

準備をしている。イラストレーターの得意な支援者がいたことから、持っているリソースをうまく利用してアート活動を拡充させている(図5)。

C-2. 建築のハード面での工夫

ガーデンスクエア(生活介護事業所)

運営法人：社会福祉法人 フラット

利用者にとっての不要な刺激を減らして、他の人と必要以上に視線が交わらないように、パーティションで区切るのではなく、室配置と開口部の向きを調整している。何人かで一緒に作業ができる大きい作業室と、1人や2人での作業や休憩ができる小さな部屋を配置し、それぞれの部屋が庭に面した開放的な場所をつくっている(図6)。

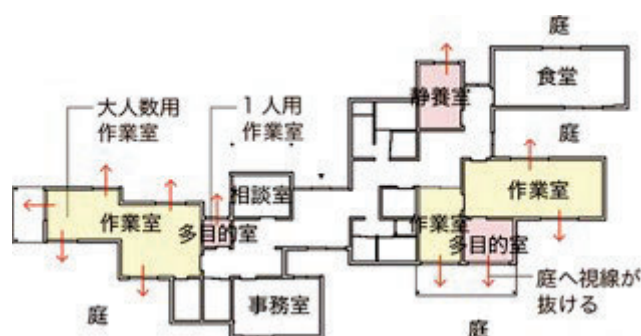


図6 1階平面図

若杉(生活介護事業所)

運営法人：社会福祉法人 京都ライフサポート協会

トイレを廊下の端にまとめて配置すると支援者が作業室から抜けて他の利用者への支援に穴が開く懸念から、作業室内に専用トイレを配置し作業ユニットごとの支援を徹底している(図7、写真6)。



図7 作業室平面図

写真6 作業室内観

自立サポート森と木(自立訓練事業所)

運営法人：社会福祉法人 森と木

各作業室等と廊下との間仕切りは、欄間を設けた上で羽目板張りの壁や木のルーバーや格子、必要に

応じた目隠しフィルムなど、欄間で拡がりをつくりながら、それぞれの場所に合わせた豊かな間仕切りがつけられている（写真7、8）。



写真7 事業所内観

写真8 事業所内観

C-3. インテリア的な工夫

TERRACEやまびこ（生活介護事業所）

運営法人：社会福祉法人 南高愛隣会

がらんどうの空間の中に簡易的なパーティションを設置して、個人のスペースを作っている。パーティションの色はそれぞれの好みの色を選定している（写真9、10）。

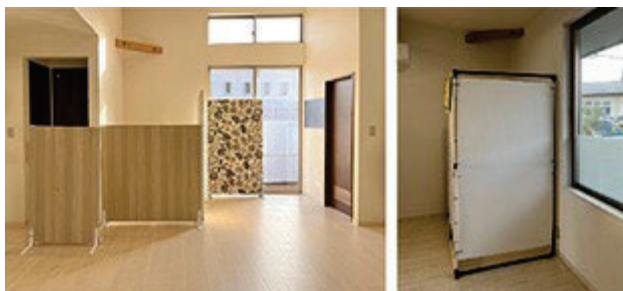


写真9 作業室内観

写真10 作業室内観

あんずデイセンター（生活介護事業所）

運営法人：社会福祉法人 京都ライフサポート協会

障害の重い方に合わせた支援者のDIYによる仮設のパーティションを設置している。行動障害が出た際に、支援者との接触までの距離を取るために設置されたが、他の利用者と適度な距離を保つ居場所や作業用収納としても使われている（写真11、12）。

TERRACEやまびこ（生活介護事業所）

運営法人：社会福祉法人南高愛隣会

中庭だった部分を訓練室として室内化している。中庭の広さや周辺室とのつながりといった中庭の特性を活かした利用方法が見られる（図8、写真13）。



写真11 作業室内観

写真12 作業室内観



図8 1階平面図

写真13 訓練室内観

D. 考察

様々な取り組みや建築的な工夫について、地域との関係、建築のハード面、インテリア面について考察を行う。

1. 地域との関係

就労継続支援においては、障害者支援を付加価値とするのではなく、商品の質を高めることを重視する法人が複数見られる。専門家と協働し商品自体の質を高めるとともに、駅前や中心市街地という立地、SNSの活用、店舗の高いデザイン性と組み合わせることで、商品購入にとどまらない消費活動の質が高められており、障害者就労を特別視しないことが重要であると考えられる。

生活介護事業所とその周辺地域との関係においては、事業所内の活動を地域住民に知ってもらうことを意識する法人が多いなかで、地域への開き方は地域特性に合わせた工夫が見られた。住宅地内であり周辺住居と距離が近くプライバシーの面で開口部の大きさや位置に配慮が必要な「あんず若杉」では、半透明ガラス壁がプライバシーを確保するとともに外観に柔らかな印象を生みながら、敷地境界に植栽空間とオープンスペースを連続的に配置し植栽の手入れを丁寧に行うことで、建物外を最大限活用して近隣との良好な関係を築いている。一方、「ライフサポートはる」では、市街地内の道路沿い衣料品店舗を改修し、店内を見せるための大きなガ

ラス窓を地域住民へ事業所内の活動を見せるための窓と読み替えることで街並みを継承しながら積極的に活動を街に開いている。

また、就労継続支援事業所を併設し敷地内に地域住民を呼び込むことで利用者の活動が垣間見えるようにする手法は、地域によらず複合的事業所では有効であると思われる。

2. 建築のハード面、インテリア面

音、視線に対する配慮が共通して見られるなかで、ハード面での対応、インテリア面での対応は事業所ごとに異なる工夫が見られる。「ガーデンスクエア」では、建物形状・配置、開口部の位置や高さを工夫するなど建物自体で音と視線の両方を調整している。一方、「TERRACEやまびこ」では、建物自体はシンプルな箱としながらインテリアに簡易なパーティションを用いて利用者の状況に応じた視線の調整を行っている。ハード面では、床・壁・建具において高い性能が実現でき、パーティション等のインテリア面では利用者へ臨機応変な対応が可能となるため、多くの事業所ではこれらを組み合わせて環境整備しているが、利用者と密接な関係を結ぶ支援者が運用のなかで行う工夫に着目し、構造化をもとに設計段階など事前に計画する工夫、運用のなかで試行錯誤し生み出された工夫に分けて考察する。

2-1. 構造化をもとにした工夫

可能な限り広く、高く大きな空間を確保したうえで、1人や少数人数で過ごすことができる小さな空間を用意することを重視する事業所が多く見られた。床・壁の性能確保のほか、音が反響しないように大きな空間に間仕切りを設ける際に、間仕切り壁で閉じるのではなく、活動にあわせて欄間や格子の建具を用いて光や視線を通し広がりを感じられる設えが見られた。

床・壁の仕様、建具の仕様、空間と建具の関係については、調査事例を含め今後整理を行う。

2-2. 運用のなかで生まれた工夫

パーティションの色や高さ、区画形状など、利用者の状況に応じて個別スペースを作り出すことが可能な簡易パーティションは多くの事業所で採用されていた。「ライフサポートはる」ではパーティションの内側にさらにテントを設置してカームダウンスペースを確保してより解像度高く個々の状況に応じている。「あんずデイセンター」では、行動障害への対応のため作られたDIY間仕切り壁が、単なる壁ではなく収納棚、飾り棚として利用されて

おり、多様な機能を併せ持つことで、行動障害のある本人以外の利用者や支援者にとっても利便性と居心地を両立した室空間を実現している。

また、既存の環境を活かしたものとして、既存店舗を再利用した「ライフサポートはる」以外にも、「TERRACEやまびこ」では、既存事業所の中庭を室内化することで、中庭の特徴である周辺室とのつながりとその空間的広さを活用し、動線のハブとなることで事業所の中心的にぎわいを作り出している。

「生活介護事業所によきによき」（社会福祉法人ゆうゆう）では、廃校となった中学校を再利用し、既存教室に合板のDIY間仕切りを最低限追加し個別スペースを作るとともに、防音性能のある音楽室や放送室の一部にカームダウンスペースを設けている。ここでは既存の機能・性能と事業所の機能を厳密に一对一对応させるのではなく、緩く対応させながらDIYで追加対応することで既存環境の有効活用と可変性を両立している。

これらの運用のなかで試行錯誤し生まれた工夫は、構造化をもとにした計画を補完するとともに、計画時の想定からずれながらも支援者による解像度の高い観察から生まれたものであり、有効性のフィードバックを行い、再度、計画段階に組み入れることや構造化することが考えられる。

E. 結論

先進的な取り組みを行っている事業所の日中活動の場を中心に調査を行い、地域との関係、建築のハード、インテリアについて構造化をもとにした工夫と運用のなかで生まれた工夫について、有効と思われる事例を収集した。

今後、事例を増やしたうえで、各項目について整理し計画方法論としてまとめることを目指す。

また、構造化をもとにした各種仕様や室関係については、体系化を行う。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし